

ジオスペース館だより

星図は、ステラナビゲーター11を使用して作成

★ 今月の星もよう ★

5月中旬の夜9時頃、星空を見上げると、天頂付近には、「おおぐま座」「こぐま座」「うしかい座」が、もう少し低い位置には、西から順に「かに座」「しし座」「おとめ座」、さらに下には長大な「うみへび座」など、春の星座が広がり、4月1日号で紹介した《春の大三角》も、南の空高くに見えます。



ギリシャ神話では、「おとめ座」は、農業の女神デメテルが左手に麦の穂を持つ姿とされ、スピカはその麦の穂先で輝く1等星です。因みに、スピカとは「トゲトゲしたとがったもの」という意味で、スポーツ用の靴スパイクと同じ語源だそうです。「うしかい座」は、大地の神アトラスが2匹の猟犬を連れてきた姿とされ、そのα星のアルクトゥルスは、全天で21個ある1等星の中では4番目に明るく、春の星座の中では最も明るいオレンジ色に輝く星です。因みに、アルクトゥルスとは「熊の番人」という意味で、日周運動により「おおぐま座」を追いかけているように見えるため、そう名付けられたとされています。また、南東には「かんむり座」「へび座」「てんびん座」「さそり座」など、夏の星座も顔を出しています。

★ むぎぼし(麦星)・しんじゅぼし(真珠星)【星の和名のお話】

「麦星」は、「うしかい座」のアルクトゥルスの和名です。麦の実る季節に昇り、オレンジ色の星の輝きが、実った麦の色を思わせることから「麦星」と名付けられたと考えられ、松尾芭蕉と同時代の俳人である揚水の「麦星の豊の光を覚けり」という俳句にも詠まれていることから、少なくとも江戸の頃には、その名で親しまれていたことがうかがえます。一方、「真珠星」は、「おとめ座」のスピカの和名ですが、残念ながら古い資料にはその名を見つけることができず、わずかに「シンジボシ」という似た名前の星が福井の一部地域での伝承にみられるだけで、それがスピカのことかどうかも推測に過ぎないとのこと。スピカの和名が正式に「真珠星」となったのは、野尻抱影という日本の天文民俗学者が、太平洋戦争末期に海軍航空隊から、航空機や艦船の位置を測定するための基準として使うため、和名をつけるよう依頼されて命名した以降のようです。

★ 金星と木星の接近に注目!

5月には、夜明け前の東の低い空に、金星(−4等)と木星(−2等)が見えます。2つの惑星は1日の6時頃に大接近しますが、空が明るくなる日の出前には観測を終わしましょう。星空の中を移動する金星のスピードが、木星よりもずっと速いため、金星は木星から離れ、東へと移動し、4日には図のような配置となります。日ごとに位置が変わっていく様子を、ぜひ、観察してみてください。

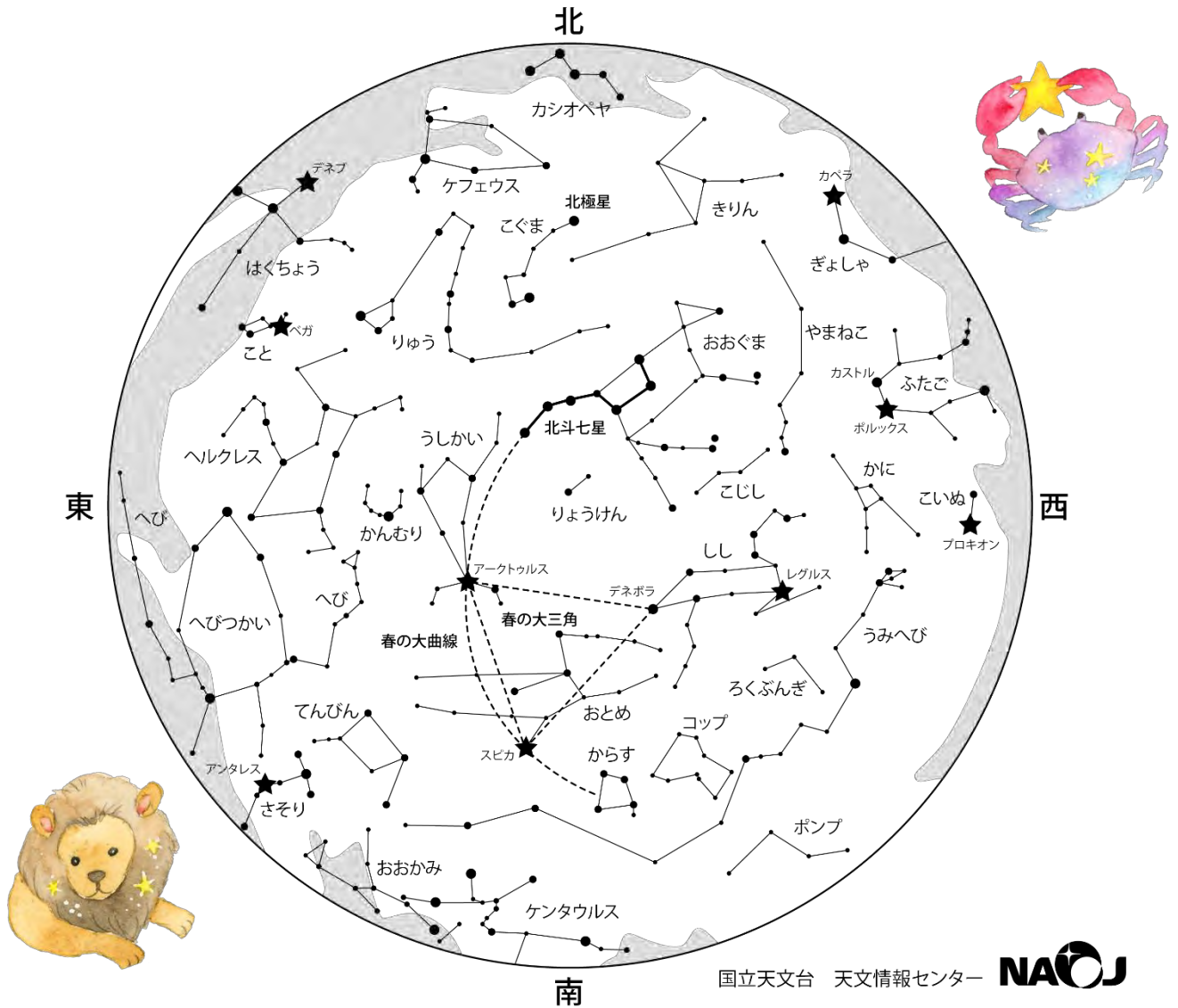


★ 5月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 5/2(月)、6(金)、9(月)~12(木)、16(月)、18(水)、23(月)、30(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

5月上旬午後9時頃の星空



★ 5月上旬の主な天文現象

1日(日) ● 新月、金星と木星が大接近	6日(金) みずがめ座 η 流星群が極大
2日(月) 水星、プレアデス星団と細い月が接近	9日(月) ● 上弦
5日(木) 立夏	15日(日) てんびん座 α 星(二重星)の食

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 5/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 5月 13日(金) [見やすさ ◎]	4:16 北西 ~ 4:23 南東
◇ 5月 14日(土) [見やすさ ◎]	3:28 北西 ~ 3:34 東南東
◇ 5月 14日(土) [見やすさ ◎]	20:08 南西 ~ 20:14 北東
◇ 5月 15日(日) [見やすさ ◎]	19:19 南南西 ~ 19:26 東北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。